

奈良県立五條高等学校 平成29年度 学校運営協議会 分校部会（第2回）

- 1 日 時 平成29年12月18日（月） 14時30分 ～16時
- 2 場 所 奈良県立五條高等学校 賀名生分校 校長室
- 3 参加者 (委 員) 柳澤佳孝委員、沼田守弘校長
(事務局) 田村隆真（分校教頭）、
花岡重之（教務部長）、山口敦弘（生徒指導部長）
(記 録) 岡本由紀（総務部長）



4 内 容

(1) 校長あいさつ

今後、農業高校として発展していくためにも、地域の方々のご協力をお願いしたい。

(2) 分校の現況について（報告）

・（学習状況について）

- ・出席状況・特別指導状況報告。
- ・工夫した授業（ブタの眼球解剖等）の紹介。

・（生徒指導より）

- ・生徒寮に関わる準備として、今後『寮則』を学校側の意見と市教育委員会の意見をすり合わせの上、作成が必要と考えている。

・（クラブ活動報告）

- ・陸上部・卓球部が全国大会出場、野球部対外試合に参加、ボランティア部が地域の祭りに積極的に参加等。

・（平成30年度全国募集について）

- ・高校見学会（3回実施）の参加者報告。
- ・見学会での質問内容について。
- ・在校生にも給食の利用希望アンケートを実施。

・（農業科の将来について）

- ・最近6カ年の「農業の担い手」育成事例報告。
- ・在校生の職場体験、クラブ活動は大事にしていきたい。

(3) 意見聴取・質疑応答

（質問・委員）

来年度からの授業と実習の割合がどれくらいか。

(回答・事務局)

1年生で総合実習週5時間、年間21週は校外実習。

(意見・委員)

今、日本の農業技術はトップクラス。日本の販売市場は、東南アジアが必須となっている。そうになると、これから農業に従事するには、英語、特に英語のコミュニケーション能力が重要であると痛感している。また各国の歴史の知識も必要。農業は、技術のイメージが大きいですが、感覚と、数字（気象状況のデータ、生産コスト等）も大事である。これから賀名生分校はそういうところも考えていってほしい。

(質問・事務局)

日本の食糧自給率は低いですが、柿は輸出しているか。

(回答・委員)

輸出している。今は、8～9割が東南アジアに輸出している。価格は日本の3～5倍。海外に柿を輸出するのは、日本国内の価格を安定させるためである。日本で飽和状態のものを、海外に出せば日本国内の価格を安定させることができる。需要と供給のバランスが保てる。

(意見・委員)

農協と市場だけでは、どうやって値段をつけているか、消費者の意見が分からない。私は、インターネット販売をしている。自分の柿を全部自分で売るには約10年かかった。

(意見・事務局)

販売・流通について、社会人講師として、是非生徒たちに教授していただきたい。

(意見・委員)

生徒さんのためになるのであれば、私にできることはさせてもらいたい。

(意見・委員)

私は高校卒業後、農業大学校にすすんだが、親が農業をやっていたので親をみていたら習得できることが多かった。親には、様々な友達を作ってこいと言われた。いろんな繋がりのおかげで、いろんな業種や販売先ができ、今でもつながっている。いかに新しい情報が得られるかが大事。高校時代に農業が楽しさを実感してもらいたい。

(意見・事務局)

是非、高校生に農業の魅力を語ってもらいたい。

(意見・委員)

賀名生分校は、これから五條にとってキーワードになるポジションになると思う。全国から取材にくるような魅力ある学校にしてほしい。

(意見・事務局)

入学した時の、最初が肝心。期待に応えられるよう、教員の意識から変えていきたい。

(意見・事務局)

マスコミに対して計画的に発信していく必要がある。

(4) 校長挨拶

長時間にわたり、私たちのふだんなかなか聞けない農業の進化している現状等聞かせていただいた。子どもたちに、農業の現状を教える意味においても、今後とも末永くご支援・ご指導をお願いしたい。

5 その他

・今後の予定について

第2回学校運営委員会（全・定・分） 五條高校本校にて